



10/31～11/2の3日間、漆実習をおこないました。
漆実習は、12月中旬～2月中旬に、木材造形科が選択できるカリキュラムです。
しかし今年は、木工科・漆実習を選択しない木材造形科訓練生にも漆に触れてもらおうと、3日間の凝縮した漆実習を先行して実施しました。



漆器の町・木曾平沢で現役で活躍しておられる職人さんが講師です。
生漆を木地に塗って、拭いてを繰り返して製作する拭き漆を学びました。



3日間で、5回塗って拭いて乾かしてを繰り返します。
4組に分かれ、順番に入れ代わり立ち代わりの実習。
漆室が賑わっていました。



漆を乾かすため、製品を室に入れた様子です。
木地は、既製品・製作したもの・塗りたいものを各自用意しました。



漆刷毛の片づけを見て学んでいます。
漆刷毛の用意と片づけは、少し時間がかかる作業です。
片づけの間も漆のお話をたくさんしていただきました。



11月11日、できあがった漆製品の講評会。
木地の違いや、木地の状態、漆の拭き取り加減などによって違いがあり、比べながら鑑賞すると興味深いです。
講師の先生からは、「よくあがっている」との評価をいただきました。



今回の実習は、できあがったツヤツヤの漆器を日常生活で使用し、変化を観察することも一つの目的です。
自分で塗った漆器、大切に使いたいですね。
木材造形科は再び漆実習が始まります。
奥深い漆の世界をさらに一歩奥へ進み、貪欲に知識と技能を身につけましょう。